26　　夫婦のとは 　文法　反語形①

　ノ 、　　之　　也。既ニ シテ 而　夫ニ 有㆓リ 　㆒。其ノ 母　将㆔ニ 改㆓­メ 嫁シメント ㆒。女　、「夫　之　不　、 ㋐乃　　之　不　幸　也。①奈　　 。 ㆑ク 人ニ 之　、 タビ 与㆑ 之　スレバ、終　身　不㆑ 。不　幸ニシテ遇㆓フモ悪　㆒、彼ニ　無㆓ク 　㆒、又　不㆑ ㆑ラ 。②　　 」㋑終　不㆑ 。

語注

蔡・宋＝国名。

妾＝女性が自分を謙遜して言う言葉。

【原文】

蔡　人　妻、宋　人　之　女　也。既　嫁　而　夫　有　悪　疾。其　母　将　改　嫁　之。女　曰、「夫　之　不　幸、 乃　妾　之　不　幸　也。奈　何　去　之。 適　人　之　道、 一　与　之　醮、終　身　不　改。不　幸　遇　悪　疾、彼　無　大　故、又　不　遣　妾。何　以　得　去。」終　不　聴。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

〔　　　　〕の妻は〔　　　〕が重病となったため、〔　　　〕から別れることを勧められたが、夫との関係を〔　　　〕めず、その言葉を聞き入れなかった。

問二　波線部㋐・㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　反語形①

⑴　次の表を完成させよ。〈1点×2〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 安クンゾ（焉・悪・烏）～〔セ〕ン（ヤ） | | 誰カ（孰）～〔セ〕ン（ヤ） | | 何ヲカ（奚）～〔セ〕ン（ヤ） | |
|  | 安くんぞ～〔せ〕ん（や） |  | 誰か～〔せ〕ん（や） | 何を～か、いや何も～ない。 | 何をか～〔せ〕ん（や） |

⑵　次の文を語注を参考に、現代語訳せよ。 〈2点×2〉

1　誰　知㆓ランヤ烏　之　雌　㆒。 （詩経）

2　用㆓ヰンヤ　㆒。（用＝必要とする） （杜子春伝）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①について、

⑴ 全てひらがなで書き下し文にせよ。 〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵ このように言うのは、母がどのようなことをしたからか。二十字以内で答えよ。 〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②について、

⑴　言葉を補って現代語訳せよ。 〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵　娘がこのように言うのはなぜか。最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　一度結んだ夫婦の絆は改めるものではない上に、夫には大罪も離縁しようという意思もないから。

イ　たとえ別の男性と結婚しても病気の男のことが気になり、幸福を保つことは決してできないから。

ウ　別の男性と結婚して病気の夫と離れてしまえば、病状をさらに悪化させることになりかねないから。

エ　夫が病気になった原因は自分にあり、その夫を裏切って別れてしまうことは倫理上許されないから。

〔　　　〕

【解答】

問一　蔡人　夫　母　改

問二　㋐＝すなわち　㋑＝ついに〈4点×2〉

問三　⑴　〈1点×2〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 安クンゾ（焉・悪・烏）～〔セ〕ン（ヤ） | | 誰カ（孰）～〔セ〕ン（ヤ） | | 何ヲカ（奚）～〔セ〕ン（ヤ） | |
| どうして～か、いや～ない。 | 安くんぞ～〔せ〕ん（や） | 誰が～か、いや誰も～ない。 | 誰か～〔せ〕ん（や） | 何を～か、いや何も～ない。 | 何をか～〔せ〕ん（や） |

⑵　１＝誰が烏の雌雄を知っていようか、いや誰も知らない。〈2点×2〉

　　　　　２＝どうしてその子を必要としようか、いや必要ではない。

問四　⑴　いかんぞこれをさらん。〈6点〉

　　　⑵　自分を別の男性に嫁がせようとしたこと。（19字）〈12点〉

問五　⑴　どうして彼を捨て去ることができようか、いやできない。〈8点〉

　　　⑵　ア〈10点〉

【現代語訳】

　蔡の人の妻は、宋の人の娘であった。（女が、蔡人に）嫁いでから夫が悪い病気にかかった。その（娘の）母がこれ〔＝娘〕を（他の人に）改めて嫁がせようとした。（しかし）娘が言うには、「夫の不幸は、まさに私の不幸です。どうして彼を捨て去ることがありましょうか、いやありません。人に嫁ぐ道は、一度これ〔＝夫〕と結婚すれば、一生（その道を）改めないものです。（今）不幸にして（夫が）悪い病気にかかりましたが、夫には大きな過ちもなく、（その上また）私を実家に帰らせるということもありません。どうして捨て去ることができましょうか、いやできません。」と。（女は）結局（母の言葉を）聴き入れなかった。

【書き下し文】

のは、のなり。にしてにり。のにをめしめんとす。はく、「のは、ちのなり。ぞをらん。にくのは、たびとすれば、めず。にしてにふも、にく、をらず。をてるをん。」と。にかず。

【補充問題】

問１　「其母将改嫁之。」（２行目）について、

(1)　書き下し文にせよ。

(2)　「之」の指す内容を明らかにして現代語訳せよ。

問２　「夫之不幸、乃妾之不幸也。」（２～３行目）とは、どういうことを言っているのか。最も適当なものを選べ。

ア　夫の不幸は、やはり妻である私が救うべきであるということ。

イ　夫とそして妻である私は、一心同体の関係であるということ。

ウ　夫とそして妻である私の不幸は、偶然にも同じことだったということ。

エ　夫の不幸は、妻である私が不幸だから生じてしまったということ。

問３　娘が「終不聴」（５～６行目）であったのはなぜか。最も適当なものを選べ。

ア　母が求めることは倫理に反する行いだと判断したから。

イ　心から愛する夫と離れることはできないと判断したから。

ウ　母の発言には論理的整合性がないと判断したから。

エ　自分の徳を下げる行いをすることは損だと判断したから。

【補充問題解答】

問１　(1)其の母将に之を改め嫁しめんとす。

(2)母は娘に改めて（別な男性に）嫁がせようとした。

問２　イ

問３　ア